南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

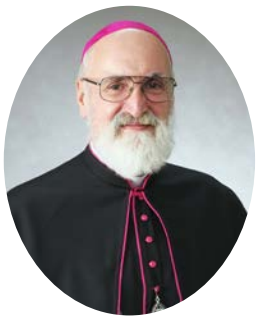
今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2024年4月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第785号（4月号）

キリストが死から生命へ



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バーント司教

復活徹夜祭に多くの兄弟姉妹が入信の秘跡、すなわち洗礼、堅信、ご聖体を受け、わたしたち教会共同体の新しいメンバーになられました。こころからお喜び申し上げます。

復活徹夜祭の典礼に次のような導入の言葉があります。「皆さん、主イエス・キリストが死から生命へお移りになったこの最も聖なる夜、母である教会は、皆が一つに集まって祈りのうちに徹夜するよう呼びかけています。わたしたちは神のことばを聞き、洗礼と感謝の祭儀によって主の過越を記念します。こうして、わたしたちはキリストとともに死に打ち勝ち、神のうちに生きる希望を持つのであります。」

キリストが死からいのちへお移りになったことはわたしたちの信仰の核心です。わたしたちがキリストの死に対する勝利にあずかるために洗礼はあるのです。復活徹夜祭で朗読されるローマ書（六・3～11）が教えているように、洗礼とはキリストの死と復活にあずかること、キリストとともに死に、キリストと共に新しいいのち生きるようになることです。罪に支配される古い自分が死に、キリストの復活のいのちを受けた全く新しい人間として生まれ変わることを意味しています。

しかも、洗礼によるキリストの死と復活への参与は、肉体の死後のことではなく、今この世に生きている時からすでに始まるいのちへの生まれ変わりなのです。

同じことを、復活徹夜祭の第七朗読エゼキエル書（三十六・25～26）は次のように教えています。「わたしが清い水をお前たちの上に振りかけるとき、お前たちは清められる。わたしはお前たちを、すべての汚れとすべての遇像から清める。わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える」と。だからわたしたちは、洗礼によって生きながらにして、全く新しく生まれかわることができるようになるのです。外見は変わらずとも、あるいは内面も弱さにあふれていても、わたしたちはありのままでキリスト・イエスに従い、何度誤ってもその罪を認めて神へと立ち返る時、すでに神への道を歩んでおり、新たないのちに生きる者となっているのです。どんなにみじめで苦しい状況にあろうとも、どんなにしあわせで満ち足りたときにあっても、神への愛と隣人への愛に生きるとき、わたしたちには自覚できなくても、すでにキリストと共に死からいのちへ移っているのです。この救いの神秘に生きましょう。まるで死後のみの世界であるかのように語られてきた天国にではなく、キリストの死と復活によって今、すでに、ここにある、まことのいのちの道、キリストの道、神の御許（みもと）への道を歩みましょう。

信頼とゆるしと奉仕の道、愛の道を歩むことによって、あなたのうちにすでに始まっている神のいのち、永遠のいのちを輝かせましょう。その輝きは、さらなる救いをもたらします。

徹夜祭の洗礼式では司祭はすべての受洗者（全てのキリスト者）に次のことばを述べます。「あなたがたは新しい人となり、キリストを着るものとなりました。神の国の完成を待ち望みながら、キリストに従って歩みなさい。」

皆さん ご復活おめでとうございます

Happy Easter!; Feliz Pascua a todos

Chúc Mừng Lễ Phục Sinh; Maligayang Pasko ng Pagkabuhay!

Caritas Okinawa Holds a Soup Kitchen

Article contributed by Marie Yamazato,
Caritas Okinawa Volunteer - Oroku Parish

Caritas Okinawa held a soup kitchen on Saturday, February 17, at Makishi Park from 10:00 am to 12:00 pm in collaboration with Yuimaaru no Kai. The meal Caritas Okinawa prepared for people in need consisted of a pork bowl (butadon), a bottle of water, and scones. All food items for the soup kitchen were donated by kind-hearted people and also parishes which Caritas Okinawa visited on its Yuimaaru moving car campaign. An especial thanks goes to Rika Sakiyama who skillfully managed the entire cooking, a parishioner from Yomitan Catholic Church who provided all the bottles of water, and the Sisters of Franciscan Immaculate Heart of Mary from Yonabaru Catholic Church who kindly gave their time and effort in making the delicious scones.

Members and volunteers of Caritas Okinawa took 80 pork bowls and an equivalent amount of bottles of water and scones to the park. During the two hours at the park, Caritas Okinawa gave out 60 meals to people experiencing homelessness. Social welfare workers personally delivered the remaining 20 meals to those who were incapacitated and could not come to the park.

A touching moment left an indelible mark on us who worked at the soup kitchen. After finishing his meal, an elderly gentleman went out of his way to return to the soup kitchen to thank us for the warm meal he had received. His kind gesture, in turn, taught us the importance of gratitude and humility that we must practice in our lives.

Our work on that day ended with a reflection session held at the Catholic Cultural Center. Each volunteer shared what he/she had learned from the experience of working at the soup kitchen. One Sister from Yonabaru Catholic Church offered a very heartwarming thought: The beautiful smiles she received from the unhoused that she gave pork bowls to made her heart brim with joy and happiness. She concluded, “in giving” she “received much much more.”

In closing, we Caritas Okinawa members and volunteers were filled with a sense of gratification and accomplishment when the soup kitchen ended. It is hoped that we offered the hungry not just food, but also hope, dignity, and respect. At least for a day, we did what we were put on earth to do—help those who are less fortunate than ourselves.

The soup kitchen experience is only one of the various social action activities of Caritas Okinawa within the diocese.

On behalf of the members of Caritas Okinawa, we would like to extend our gratitude to the support of all the parishioners of each parish we visited for the past three years who have donated in cash and in kind to all the present activities of Caritas Okinawa. As we close the financial year 2023 we would like to acknowledge Nago Catholic Church and Yomitan Catholic Church whom we visited in the same year for their cash donation of 25,500 yen and 24,386 yen respectively during our Yuimaaru moving car food drive campaign. We also thanked the individual donations we have received during the year in the amount of 14,640 yen.

We ask for your continued support as we the members and volunteers of Caritas Okinawa knock on your generosity when we go and visit your parish again.

Mercy Cristobal
Caritas Okinawa Diocesan Coordinator

ニヌファ走

三人の弟子は一緒に空（から）の墓に走ったけど・・

ヨセフ・ブイ神父
泡瀬教会　主任司祭

ご復活おめでとうございます。

福音によりますと、週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行きました。そして、墓から石が取りのけてあるのを見て、シモン・ペトロとイエス様の愛する弟子・ヨハネのところへ走って行って、「主が墓から取り去られました」と告げました。そこで、ペトロとヨハネは急いで墓に行きました。彼らは、中に入りましたが、「イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じところには置いてなく、離れたところに丸めてあった」のを見ました。そして、お墓が空になっているのを見て信じたのは、ただ一人ヨハネだけでした。マグダラのマリアとペトロも、同じように見ましたが、信じませんでした、どうしてでしょうか？

ご存知のように、ユダヤ人たちにとって、安息日は大切な日で、力のいる労働はできませんでした。当時のユダヤ人の習慣によると、新しい一日は、日没（夜の六時か七時ごろ）から始まりましたので、マリア様をはじめ、マグダラのマリアと弟子たちは、日没の前に、イエス様の遺体を早く葬らなければならなかったのです。しかし、時間がなくて、イエス様の遺体に香料と香油を充分に塗ることができませんでした。ですから、安息日が終わった、朝早く、まだ暗いうちに、彼らは準備しておいた香料を持ってお墓に行ったのです。

ここで、三人の人物について心理学的に分析してみましょう。

まず、マグダラのマリアです。ご存知のように、マグダラのマリアはイエス様が大好きでした。なぜなら、イエス様は、彼女の悪い生き方を直してあげたからです。全面的に生活を改め直してもらった彼女は、イエス様に従いました。

ですから、彼女の目的は、一刻も早くお墓に行って、イエス様のご遺体に、もう一回香料を塗りたいということでした。前の日は、時間がなくて、充分に香料を塗ることができなかったからです。その時の彼女は、イエス様は、亡くなっていると思っていました。しかし、墓に遺体を包んでおいた布しか見ることができなかったので「誰が主を墓から連れ出したのだろう」と考えました。彼女は、復活されたイエス様を認めることができませんでした。

次はペトロです。ペトロはイエス様の弟子であることを否定しましたので、イエス様の死の後、恐れと後悔に悩み苦しみました。彼は、他のさまざまな問題に悩まされずに、平和と安心の心で生きたいと願っていました。彼は、お墓に向かって走りながら「どうして墓から主が取り去られたのか」と心配していました。また、取り去られた主の体について何とかしたいとも考えていました。ペトロも、キリストの復活を信じることができませんでした。

最後はヨハネです。ヨハネはイエス様が最も愛した弟子です。もちろん、ヨハネと同じように、他の弟子たちもイエス様を愛しましたが、イエス様が苦しんでいる間に、逃げる弟子もいたなかでヨハネだけは、十字架にかけられるゴルゴタの丘までイエス様とともに歩き続けました。十字架にイエス様が掛けられたとき、十字架の下にはヨハネだけが立っていました。

ですから、ヨハネは、墓の入り口から岩が動かされて、遺体がなくなって、お墓が空になっていたのを見たときにも信じていました。誰かを愛しているときには、愛する人のことを常に考えるものです。ヨハネは、イエス様を愛していましたので、彼の生活の中に、いつもイエス様がいました。それで彼は、イエス様が生きておられた時に、「人の子は、人々の手に引き渡されて、殺される。殺されて三日の後に復活する」との教えを思い出し、大きな喜びと希望に満たされていました。このような感情の中にあったヨハネにとって、イエス様が復活されたことを認めることは容易いことでした。彼は見て、信じました。

マグダラのマリアと、ペトロ、そして、ヨハネは、イエス様の復活を信じるように私達に勧めています。イエス様がマグダラのマリアを開放されたように、私達をも悪から解放してくださるように願いましょう。

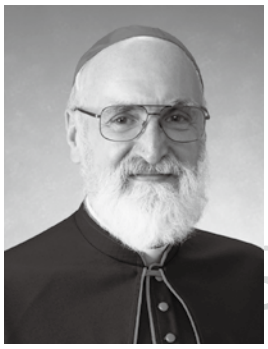
イエス様がペトロのために祈られたように、私達を強め、私達のために祈ってくださるように願いましょう。特に、忠実な使徒であったヨハネのように、イエス様に愛される事を受け入れ、イエス様に信頼される相手となりましょう。恐れと罪から開放されて、皆一緒にキリストの愛の証人である兄弟・姉妹たちと出会うために出かけましょう。

マグダラのマリアや、ペトロ、ヨハネと一緒に、「キリストは復活された。命は死に打ち勝った。神様は王国の扉を私達のために広く開いてくださった！そうです。私たちは、体の復活を信じます。永遠の命を信じます！」と、この希望に満ちたよい伝言を、皆に告げるために、三人の証人のように走りましょう。

皆さん、喜び褒め称えましょう。キリストはご復活されました。アレルヤ、アレルヤ！

主のご復活おめでとうございます

押川壽夫名誉司教



ウェイン・フランシス
・バーント司教

司祭の約束の更新

聖香油のミサは、本来は聖木曜日の午前中に行われるものですが、教区によっては地理的な理由で他の曜日に移されます。那覇教区では、毎年受難の水曜日におこなわれています。このミサには、教区内のすべての司祭が参加して共同司式するよう求められています。司教を囲む司祭団の一致があらわされ、司祭の叙階のときの約束の更新がなされます。

『全能の神よ、御子キリストに選ばれた私たち司祭が、あなたのことばと秘跡によって人々に仕え、与えられた使命を、恵みによって果たすことができますように。』

2024 年聖香油ミサを終えて

那覇教区で働く司祭助祭たち

司祭

マイケル・ヴィン神父
名護教会

リカルド・ブガス神父
読谷教会

藤澤 幾義 神父
石川教会

サニー・カンティラーノ神父
具志川教会

ヨゼフ・ブイ神父
泡瀬教会

ピーター・チャネル・チェ神父
コザ教会

デニス・フェルナンデス神父
真栄原教会

セクウェーラ・ナビーン・ジョセフ神父
普天間教会

ボスコ・ティン神父
首里教会

フランシス・ティエン神父
安里教会

古川政孝神父
開南教会

マキシム・デソーザ神父
小禄教会

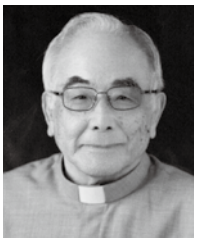
クレーバー・ディ・ソーザ神父
与那原教会

ヨアキム・ホアイ神父
宮古島平良教会

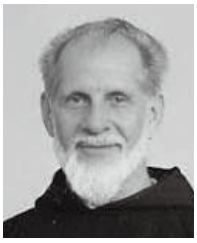
ロドニー・モンディド神父
石垣教会

助祭

新垣宗堅助祭
コザ教会


稲國安尚助祭
与那原教会

石垣陽一郎助祭
首里教会


ペトロ・ボン・エッセン神父
小禄カプチン会修道院

2024年3月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2024年3月5日（火）10:00～12:00　於・安里教会ホール。
会議の前に、サニー神父の司式で聖体賛美式（ベネディクション）が行われた。

1. **報告及び連絡事項：司会はヨアキム神父が担当。**
   - ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
   - 前回（2月会議）の報告を新田が行い、承認された。
   - 出張、休暇、研修等の不在予定
   - 3/7、8、日本におけるシノドスの集いに、ウェイン司教、ナビーン神父、Sr.アイビー及びマーシーさんが参加のため、東京、潮見のカトリック会館へ。
   - 2/15～3/16、クレーバー神父休暇でインドへ。
   - 2/11日に行われた「教区の日」について、ウェイン司教とフランシス神父、ボスコ神父から報告と反省が述べられた。司教からは、ミサにおける福音朗読は助祭や他の司祭が行って良いが、朗読の後、司教に福音書を渡し、司教が福音書を掲げて会衆一同を祝福する形が望ましいとの要請がなされた。また、司教が司式するミサでは祭壇上に7本のローソクを灯すよう工夫すること、特別な場合を除き、司教がいる場合の共同司式においては、司教が常に主式者であるべきことに留意することが要請された。その他、教区の日の祝賀会での反省点や良かった点が参加した司祭たちからも述べられた。
   - 福岡カトリック神学院の閉校式について、参加したウェイン司教とマイケル神父、津波古さんから報告が行われた。長崎教会管区における同校の果たした功績は大きく、沢山の邦人司祭を輩出した。参加した司祭たちからもたくさんの思い出が語られ、惜別のうちに散会した。今後は、様々な養成のあり方を模索しつつ、各教区の司祭養成への取り組みの強化が求められた。
   - 那覇市の出身で、東京教区の司祭としてその生涯を捧げたパドアのアントニオ泉富士夫神父帰天の報告が津波古事務局長から行われた。戦前の那覇市で受洗し、東京で司祭職を志し、司祭に叙階され、長年にわたり東京教区で働かれていたことや那覇教区50周年記念誌にも泉神父が紹介されていることが報告された。また、与那原の Sr.宮城安子（2/26）、真栄原のSr. 寺田陽子（3/2）が帰天されたことも合わせて報告された。ブイ神父から、教区に関係する聖職者の訃報については、教区事務所から各小教区に通知するよう要望がなされたが、所属修道会等からの要請がなければ、正しく情報を流すことはできない。所属機関からの要請があれば教区事務所から各小教区へ連絡する旨司教から回答があった。
   - カリタス沖縄の活動について、担当のマーシーさんから報告が行われた。2月17日に行われた牧志公園での炊き出しには、人的にも物的にもたくさんの協力が得られたことを感謝したい。支援活動は今後も継続して続けていくので、引き続き「ゆいまーる Box」を始め、様々な活動への参加や協力への呼びかけが要請された。
   - 様々な災害被災者のための祈りが、カトリック中央協議会のHPに掲載されているので、ダウンロードして小教区での祈りに活用されるよう津波古事務局長から要請が行われた。
   - 聖週間の典礼、特に聖香油ミサは離島から参加する司祭たちに配慮して、水曜日の夜7時から行うことにした。これまではコロナ禍の影響で、聖水曜日の日中の時間帯に基本的には司祭のみで行っていたが、今回からは信徒たちや特に復活祭に受洗を望んでいる方々の参列を呼び掛け、会衆の参加が可能な19:00に時間を戻して開催する。なお、聖香油ミサ後の祝賀会などは引き続き行わないこととするが、要望に応じて、希望する司祭たちのために司教館2階の食堂に自由な会食の場を提供するため、軽食を準備しておくことが決められた。
   - ベトナムから新しく一人のシスターがフィアット修道院に来られること、また、４月から浦添のフィアット修道院が泡瀬へ移転し、名護と泡瀬を正式な修道院として活動拠点とすることなどが報告された。
   - O.N.Dの Sr.ロシェルが約一年の休暇を取られること、同会の Sr.メリージョイが石川へ赴任し、これまで石川で奉仕した Sr.アイビーが勉学のため安里に移られることが報告された。
   - 愛楽園教会は、名護の巡回教会であり名護の主任司祭が責任を持っているので、教会への訪問は必ず主任司祭に連絡して欲しい。コロナ禍以降、引き続き外来者の訪問が制限されているため、訪問したい場合は、事前に主任司祭に連絡するよう要請が行われた。
   - 司祭の生涯養成について、ウェイン司教から説明と要請が行われた。司祭叙階後の生涯養成プログラムがすべての司祭に義務付けられているが、一度に多数の司祭を長期的な研修に派遣することは難しいため、今回は福岡のアベイヤ司教と名古屋の松浦司教が担当し、比較的短期間でフィリピンのミンダナオでの研修プログラムが計画されている。該当者は必ず参加するよう要請がなされた。
   - 6月に予定されている3教区合同黙想会は6/3～7日の日程で行われる。参加を希望している司祭たちは早めに各自でチケットを購入されるよう事務局から要請がなされた。
   - 石垣助祭から教区合唱団、カンタ・カトリカのメンバー募集を各小教区で呼び掛けていただくよう要請があった。毎月第一と第三日曜日に安里で練習している。
   - 開南の古川神父から有馬神父が毎日元気に過ごしておられることが報告された。
   - 稲国神父も長崎で元気に過ごしておられることと、新垣助祭が手術入院されたが、経過は良好であるとの報告が寄せられた。
2. **審議事項**
   - シノドスについて、沖縄での集いは4月28日に行うことが決められたので、マイケル神父から開催に関する説明が行われた。4月28日は午後2時から4時、安里教会で行う。参加者は9グループに分かれ、司会、記録係を選んで1時間の分かち合いを行う。休憩を挟んでグループごとに発表を行う。開催までの間に出来るだけ小教区でも分かち合いを行うよう提案された。4/28日当日は、テーブルやイスの他、パワーポイントやプロジェクター、スクリーンの用意が要請され、各小教区からは代表者3人の参加が要請された。宮古と石垣からの代表者には交通費の教区負担も決定された。シノドスについては次回も継続して審議される。
   - 2025年は聖年に当たり、月ごとに祈りの意向が定められ、関連行事の日程表が配られている。聖年の祈りやロゴマークもすでに準備され、提供されているので、それぞれの場で活用されるようウェイン司教から要請があり、那覇教区での取り組みについては、今後検討する旨、協力が要請された。
   - 4/21（日）は召命祈願日に当たり、午後2時から3時、与那原教会を会場に、各小教区の青少年や侍者たちに呼び掛けて召命の集いを持つので参加協力が求められた。
   - マーシーさんから3月の司教予定について報告があった。聖週間は、聖水曜日に聖香油ミサを安里教会で主式。聖木曜日は開南、聖金曜日は安里、聖土曜日は開南、復活の主日は具志川教会の公式訪問の予定が報告された。
   - 司祭たちの顔写真を「南の光明」4月号に掲載していく方向で準備を進めているので、写真を担当者宛送るよう要請が行われた。
   - 次回4月の司祭会議は4月2日（火）、10時から教区センター（安里教会ホール）で行われる。

2024年3月16日　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　記録：新田 選

教区NEWS教会

司教様公式訪問と堅信式

石川教会

三月十七日（四旬節第五主日）にウェイン司教様の公式訪問がありました。ミサの中では堅信式が行われ、左記の四人の方が堅信の恵みをいただきました。ミサ後は司教様との話し合いと交流会を持つことができました。話し合いの中では、那覇教区のことやこれからの教区の計画など、わかりやすく丁寧な説明があり、信徒からの質問や意見を一つ一つ熱心に聞いてくださり、回答してくださいました。

交流会では、慈父的な姿でユーモアを交えて、とても楽しいひと時を過ごすことができ、信徒一同大きな喜びと希望を持ってこれからの教会活動を盛り上げようとの希望に満ちた恵みの時になりました。神に感謝。（記・赤嶺貴子）

受堅者
アウグスチノ　島尻範優
セシリア　仲西麻美
マリア　平川木乃香（高校生）
ファティマの聖母　平川楓（中学生）

カリタス沖縄の活動報告

カリタス沖縄　「炊き出し」に参加させていただいて

去る2月17日、ゆいまーるの会、カリタス沖縄の共催炊き出しが、牧志公園で行なわれた。私たち与那原シスターズには手作りクッキーの依頼があり、80個を準備した。「炊き出し」に参加することを決めたとき喜びが湧いてきた。それは、私たちの創立者レイ司教様の模範に倣う行動の機会となる喜び。私たちは、昨年12月の総会において、本会の自己理解「聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会は、那覇教区で巡業する小さき姉妹として、マリアの心で、償いと観想の生活をしながら、貧しい人、弱い人、病気の人の中で、使徒職福音宣教の活動をする姉妹的共同です」を、どのように具体的に生きているのか、どのように生きていくのかを若い姉妹たちも、先輩の姉妹達もお互いの経験や、分かち合われることに耳を傾け、思いを深めていった時だった。貧しい人・弱い人の中に出向いていくといってもどこにいるのか分からないと言った姉妹は、分かち合いを通して行動している信徒さんと一緒に動くことかなと心の変化を見せてくれた。このことに私も気づきを貰い、カリタス沖縄に出来るだけ出向いていこうと心を決めた次第である。しかし初めての経験で少し不安もあった。文化センターで信徒のボランテイアの皆さんと楽しく豚丼を準備しながら心はほぐれて行き、牧志公園でゆいまーるの会と合流し、豚丼配布が始まるとそこは分かち合いの場となった。食事を済ませた一人の男性の方がお礼を言いたいといって戻ってこられた時、大きな感動と喜びに包まれ、皆御父の子ども、イエス様と兄弟姉妹で繋がっていることを感じた瞬間だった。

聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会：シスター與世田　明美

カリタス沖縄で炊き出しボランティアに参加しました。開催地は牧志公園でした。炊き出しをしている最中、目の前を何百人もの修学旅行生が通り続け、一歩国際通りに出れば、大勢の観光客がお土産やお菓子を買っていました。まるで間には見えない壁があるような気分になりました。炊き出しに参加してみて、壁の向こうにいる人々の誰も悪くないということは分かりました。悪意を持って無視しているのではなく、ただ見えていないだけ。普段向こう側にいる自分だからこそ分かります。

もしこの活動に参加していなければ未だに自分はこの壁に気付いていなかったでしょう。今回の体験は神様の僕へのメッセージだと思います。神様の期待に応える為にも、今後も活動に参加して、壁をなくす方法を探り、この活動を終わらせたいです。　カリタス沖縄ボランティア：馬屋原颯介（中学3年生）

カリタス沖縄の活動報告続き

カリタス沖縄の様々な活動行事として、今年の2月17日（土）に炊き出しを行いました。今回の炊き出しには、去年7月にカリスタ沖縄ボランティア募集に答えてくれた皆さんと、ゆいまーるの会・食料援助支援団体と協力し、那覇市牧志公園にて出来立ての豚丼を提供しました。また、与那原教会所属のシスター達による手作りスコーンと共に読谷教会の信者さんから寄付して頂いたミネラルウォーターも配布しました。我々、カリスタ沖縄の各教会訪問時に頂いた寄付のおかげで、3年間、歩むことができました。

2023年度　寄付金総額　・名護教会 25,500円　・読谷教会 24,386円　・個人寄付 14,640円

これもひとえに皆さんの暖かい支援のおかげです。さらに、この場をお借りして、ゆいまーるBOX(食料援助)に寄付して下さった信者の皆さんの思いやりと協力に深く感謝しております。これからもよろしくお願いします。

カリタス沖縄教区担当者：マーシー・クリストバル

安里教会 バザー開催のお知らせ

日時　令和6年4月21日(日)
午前11時～午後2時

安里教会では、下記の日程でバザーを開催します。
食品、カフェ、アロママッサージ、手作り作品、のみの市、
キッズコーナーと盛り沢山の内容で準備に余念がありません。
小教区を超えた交わりの場として楽しく過ごしていただきたく、
皆様をお待ちしています！ぜひお越しください♥
※抽選会は午後1時からです

4.28　屈辱の日

台湾・沖縄相互理解を深める
劉彦甫（りゅう いぇんふ）さん講演

私達はどれだけ台湾人の生の声を聞けているでしょうか？
沖縄に住む私たちと、台湾に住む人々と互いに出会い、
話すことから始めませんか。

2024年　4月28日【日】

時間　14：00～16：00（30分前受付開始）
対象者　どなたでもご参加いただけます
参加費　無料（カンパしていただけると助かります。）
会場　安里カトリック教会
〒902-0067　沖縄県那覇市安里3-7-2
※駐車場あり

講師
劉彦甫 / Yenfu LIU
東洋経済 記者

解説部記者。台湾・中台関係を中心に国際政治やマクロ経済が専門。台湾台北市生まれの客家系。長崎県立佐世保南高校、早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了、修士（ジャーナリズム）。日本の台湾認識・言説の研究者でもある。日本台湾教育支援研究者ネットワーク（SNET台湾）特別研究員。

第二部は…
ガマフヤー具志堅さんとの対話

共催：カトリック平和委員会・島ぐるみ宗教者の会・ガマフヤー支援者の会

那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク

相談窓口 ☎098-863-2020（火・水・木 13:00～17:00）

NPO法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日（申込、相談など）
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日（緊急対応含む）

訃　報

◆安里教会　フェリックス　崎山　英人　様
2024年3月27日帰天　享年48歳

◆聖ドミニコ宣教修道女会
シスタープレゼンター シオン　寺田　陽子　様
2024年3月2日帰天　享年74歳

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）